



統計用語の解説

〔オートメーション〕 まだ日本語の定訳はないが自動操縦装置、自動調整、自動操作、自動制御、自動機械化などとさまざまな意味であるが、オートメーションとはいわゆる電子工学を応用した人間頭脳の働きの機械化のことである。「米国のある学者は機械と使つて機械を動かすこと、すなわち機械による機械の管理（コントロール）である」といつている。

〔頭註〕 統計表の性質について統計表の表題の傍につける注意事項をいう。頭註に対して統計表の下部に注意事項を記したのを脚註という。

〔定礎法〕 一定の値をもつて指数列全体に対する共通の基準として、他の各時点の指数を計算する場合の基準を固定基準といい、このような基準の選び方を定礎法という。

編 集 室

- ◎今年はや暖冬異変のためか春が早く来たような感じである。歴史に名高い水戸偕楽園の梅も10日位早く花を開き、第1観梅デーの2月26日には既に五分咲きといわれた位である。当地方は特に終戦後年を追つて暖かい冬がつづくようである。雪も滅多に降らなくなった。貧乏な私たち日本人に対し天の恵みがあるのかも知らない。若しも天の神があるならば……このような冬がつづくならばシャツ一枚位は節約できそうである。水戸市の関係事務局の推計によると、第1観梅デー（2月26日）には12万人、第2観梅デー（3月4日）に5万人、第3観梅デー（3月11日）に20万人、計30万人の人出があつたそうである。これは戦前、戦後を通じて最高記録ではないかと思う。なお表紙の写真は偕楽園南土手下附近であります
- ◎例年の統計講習会を教育会館で開催したが、今年は新任者の出席が多く、終始熱心に聴講され、講師の先生方が驚いていたようである。このような講習会は初日の出席はよいが、日時が進むにつれてダレ味になるのがある由。
- ◎先に暖冬異変の話が一寸出たけれども、経済企画庁の経済5カ年計画によれば、5年先には私たちの衣生活も相当楽になるらしい。すなわち1年間に男の靴下なら12足分、ズボンなら3着分、背広服なら1着分位は余計に新着できることになるそうである。これには国民1人当たりの年間繊維消費量を15ポンド位（昭和29年12.6ポンド）にまで引上げなければならないわけである。本当にこの計画が実現するならば嬉しい話であ

る。

- ◎又最近の一般物価の傾向をみると、私たちの消費生活の拡張によつて、若干インフレの様相がみえるといわれる。すなわち、卸売物価の総合指数は3%上昇（経企庁調）しており、一般物価は消費財において2%（日銀調）～5%（経企調）、輸出財においては4%強（日銀調）もそれぞれ上昇しているそうである。しかし生産財の方は、4%弱（日銀調）も下落しているというから今直ぐにインフレの傾向と速断すべきでもないでしょう。しかし私たちは、デフレの効果を余りにも過大視して、耐乏生活のタガを緩めることは、固く戒めなければならぬと思う。

統計だより

- ★2月22、23日……関東甲信静ブロック昭和31年度文部省関係事務打合会議が群馬県で開かれ、本県から山中課長補佐、照山係長外3名が出席した。
- ★2月24日……関東甲信静ブロック労働力調査事務打合会議を水戸市において開催され、本県から平野課長外係員全部が出席した。
- ★3月2、3日……全国統計定管課長会議が東京都全州市長会館で開かれ、平野課長、山中課長補佐外係員が出席した。
- ★3月5～8日……昭和30年度統計主事資格認定講習会を教育会館で開催した。